

こういう若者を応援したくなります

校長 武井 正明

あっという間に教育実習も3週目が終わる。体育祭当日が実習最終日だ。
矢澤実習生は、爽やかな「一生懸命」という風を、吉中に吹き込んでくれている。

昨日の朝、少し彼と話した。驚き、感心したのは、彼が仕送りなしで、大学生活を送っているという話だった。わがまま三昧だった自分の学生時代とは大違いだ。

「学費は親から出してもらっていますから…」と彼は照れる。今後社会人になれば、運転免許も必要になってくる。免許取得はまだというので学生の内にだねという、それも何とかお金を工面してから、と笑う。早く自立して親を安心させたいという、孝行息子の一面が覗く。



素晴らしいな。学生だろうが可能な限り、自分の生活のこと（経済的な面も含めて）は、自分で責任をもってやる。

彼のような生き方を「清々しく生きる」ということなのだと思う。私は矢澤先生の言葉から、彼の「生きる芯」みたいなものが伝わってきた。見上げた若者だ。

彼の現時点での、教員になる決意は固いという。

私にそんな権限はないが、こういう意欲ある、逞しい有望な若者は、すぐにでも教員にすべきだ。ぜひとも地元新潟県の、母校吉中の先生になって帰ってきてもらいたい。

来週が体育祭という週予定の都合上、昨日の6限が早くも矢澤先生の実習最終授業となった。私は、あの初授業以来の参観だ。興味津々で体育館に向かった。



3年女子のバレーボールの授業。

矢澤先生の表情は、ずっと落ち着いて、笑顔も見られる。

そして、ねらいである「チームで作戦を立て、協力して楽しく試合を行おう」にきちんと向かった授業になっている。これは担当教諭の指導がいいからだな…。

私は、保健体育で大切なことは「心身健康で、運動を生涯通して楽しむ」ことだと思っている。その点、バレーボールに拒否反応を示している生徒が、殆どいない印象を受けたのが、とても嬉しかった。

楽しく身体を動かして、心地よい時間を子どもたちがすごしていた。十分及第点をあげられる授業だったと思う。

矢澤先生、研究授業お疲れ様でした。来週は実習ラストの週、もうひと踏ん張り、よろしくお祈りします!! 頑張れーっ!!